

Support for **Woman** Doctors

～私からあなたへ～

28年4月号

自治医大卒業生リレーエッセイ
19期生バトン vol. 1

井岡 亜希子 先生【大阪府 19 期】
琉球大学医学部附属病院がんセンター
高3男子、1人



「子育てはぼちぼち、仕事は珍道中」

こんにちは。大阪 19 期の井岡亜希子(旧姓 近藤)です。卒業後、大学との関わりがほとんどない私ですが、某学会でお声かけいただき、バトンを受け取ることにしました。「大阪府」というへき地のない県では、臨床をしたり、公衆衛生をしたり、いろいろなことを経験させていただきました。そして現在、私は縁あって沖縄県で仕事をしております。

息子(高 3)は一人おりますが、子育てをしつつ、公衆衛生(ヘルスプロモーション、感染症、がん対策など)をメインに臨床を細々、さらに大学院へ行く機会に恵まれ、在学中および今日に至るまで、がん疫学やがん登録に関する研究をさせていただきました。何かと忙しい日々でしたが、各場面でご指導くださった先生方に感謝しております。

息子は寮に入っており、そうなりますと、私の活動の場は広がっていきます。その結果、琉球大学医学部附属病院からお誘いがあり、「一度は住んでみたい!」と思いが勝り、沖縄へやってきたというわけです。仕事とはいいますと、大阪で取り組んでいました「既存データを活用したがん対策の企画と評価」を、沖縄で実現および発展させるという内容です。ちょうど平成 27 年度は、沖縄県がん対策推進計画(第 2 次)の中間評価の年度でして(すべての都道府県が、自県のがん計画の中間評価を実施する年度ではありますが、実際に実施している県は、残念ながら少数派です)、この一年間のプロジェクトを引き受けることにしました。



沖縄に住んでみますと、風土、文化、そしてうちな～たいむと、観光ではわからない発見がたくさんあります。特にお酒の文化は驚きの連続で、がん対策の柱の一つの予防に含まれている、目標「適度な飲酒」の実現は無理かも～～とってしまう程、沖縄の方々の飲み好き、飲みっぷりは見事です。また、仕事の潤滑油としても、お酒は大事です。例えば、プロジェクトでは、沖縄県担当部局の方々と協同で取り組むことになりますが、一緒にお酒を飲む機会をもつことにより、コミュニケーションがよくなり仕事が進むといった調子です。

このような感じで年度末を迎え、沖縄でのプロジェクトは無事に終わろうとしています。次は活動の場を再び大阪に移し、これまでの経験を踏まえて女性のヘルスケアに関わっていきたいと思い、少し方向転換です。

子育てを中心に考え仕事をしてきましたので、また、「大阪府」というへき地のない県の特殊性から、臨床だけでなく公衆衛生も経験し、遠回り感はあるのですが、一方で、出会った方々からの温かいご指導は何にも代えがたいものでした。

人との出会いはとても貴重で、感謝の気持ちでいっぱいです。



後輩医師・学生へ一言メッセージ

人の出会いに感謝!